Living the LOTUS
Buddhism in Everyday Life
11
2018
VOL. 158

開祖随感

誓願の大切さ

人間は弱いもので、善いことをしなくてはならないと思っても、すぐに怠け心のほうに引きずられてしまいます。

いつも樹上で坐禅を組んでいる鳥窠禅師が、その地方の長官として赴任した白楽天に、「仏教とはどんな教えなのか」と尋ねられて、「悪をなさず善を行なって、自分を浄めるのが仏の教えである」と答えたのも、そこのところなのです。白楽天が「それくらいのことは、三歳の童子も知っていよう」と問い返すと鳥窠禅師は、「三歳の子どもが知っていることを、八十の翁もできない」と答えます。

この人間の弱さを、どうしたら克服できるのか。そこに仲間（サンガ）の大切さがあるといえましょう。ただ心の中で願うだけではなく、大勢の仲間の前で言葉にしてお誓いをする。これが誓願です。

信仰は個人の回心こそ大事といいますが、自分一人でそれができる人は、そう多くないのではないでしょうか。その人の仏性をみんなが信じきって、少しくらいの失敗はあっても温かい目で見守り続けてあげる。その励まし、期待に応えなくてはならないという意欲が、人を生まれ変わらせるのです。

（『開祖随感』9　p. 122-123）

Living the Lotus
2018年11月号（Vol.158）

【発行】立正佼成会 国際伝道部
〒166-8537　東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F
Tel: 03-5341-1124 / Fax: 03-5341-1224
E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 齋藤高市
編集チーフ: 金尾江利子
校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之
編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の経典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。
現在は庭野日鑛会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life（法華経を生きる〜生活の中の仏教）というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

会長法話

「思いやり」を、いつも心に

立正佼成会会長　庭野日鑛

「安楽」なときが「正しい」とき

そろそろ温泉のぬくもりが恋しい季節になってきました。たっぷりの湯につかり、思わず「極楽（ごくらく）、極楽」とつぶやく、そんな瞬間に安らぎを覚える人も多いことでしょう。

心が安らかで楽しいとき、たとえそれが温泉につかっているときであっても、私たちは、思い煩（わずら）いや恨（うら）みつらみといった感情を離れているのではないでしょうか。迷いやとらわれが心からするりとほどけ、何にも縛られない、安らかでのびのびとした自分がそこにいます。

「仏（ぶつ）」という漢字は、日本語で「ほとけ」と読み、執着（しゅうじゃく）・こだわりから解き放たれた「ほどける」が転じたものという説があります。ですから、ほんのひとときでも、安楽で、なんの心配もないときがあるとすれば、それはまさに自分を縛るものから離れた「仏の境地」といっていいのかもしれません。

ところで仏教では、「心を常に正しい方向に向ける」ことが大切といわれます。これは、釈尊（しゃくそん）が最初の説法で説かれた「八正道（はっしょうどう）」の七番めに示された「正念（しょうねん）」のことです。

ただ、「正しい方向とは何かが、よくわからない」というのが、多くの人の本音だと思います。端的にいえば、「仏」や「真理」に心を向けることですが、これも少しわかりにくいといわれそうです。そこで、私なりに理解するところでいうと、先にお話ししたような「心がほどけ、安らかで楽しいとき」こそ、心が正しい方向にあるといえると思うのです。

しかし、一瞬やひとときではなく、心を「常に」正しい方向に向けるとなると、話がまた少し難しくなります。

「救ってあげられたら」と願うだけで

法華三部経の一つである仏説観普賢菩薩行法経に、「もろもろの迷いや煩いから離れ、安楽で淡々とした心を保ちたいのであれば」（常に涅槃の城に処し　安楽にして心憺怕ならんと欲せば）という、私たちにとっては願ってもない問いと、その答えともいうべき一節があります。

それは、「当に大乗経を誦して　諸の菩薩の母を念ずべし」。すなわち、朝夕の読経を習慣とし、「慈悲、思いやりの心をもって生きよう」と願うことだというのです。これは、常に心安らかで楽しく生きるための大きなヒントであり、私たちにとっては思いのほか身近な実践といえるのではないでしょうか。しかも、「思いやりをもちなさい」という命令形ではなくて、「思いやりをもって生きようと願うことが大切」というのも受け入れやすいところです。

ときおり、「慈悲がなかなか身につかない」と嘆く人がいます。しかし、その人はまさに「思いやりをもって生きよう」「あの人を救ってあげられたら」と願っているからこそ、そのことで思い悩むのでしょう。つまり、その人はもうすでに、思いやりの心が身についているのです。

それでも「安楽」どころか、雑念に惑わされて心が騒ぐときには、尾崎放哉の一句が参考になるかもしれません。

「人をそしる心をすて豆の皮むく」。心が怒りや貪りなどの感情に支配されそうになったら、まずは目の前のことに打ちこむ―それも「正念」をとり戻す一つの方法です。

また、「正念」の意味を「気づかい」「心くばり」と表現する人もいますが、茶道の裏千家前家元である千玄室師は、「『あなたがお幸せでありますように』、ただその一念で相手に仕える」といわれます。雑念を捨て、自分の「いま」に集中する。さらに、自分の思いは差し置いて、人さまが喜ぶように、幸せでありますようにと願いつつ、心を一つのことに向ける。それもまた、「正念」でありましょう。

「正念」――「八正道」の、まさにここが正念場です。思いやりに根ざした安らかで楽しい心をわが心とするとき、次の「正定」が真にいきいきとした実践徳目となるのです。

（『佼成』2018年11月号）

息子を通して気づいた縁起の教え

ボク・ファスン
サハリン法座

この体験説法は、2018年8月5日にサハリン法座で行なわれた立正佼成会創立80周年記念式典で発表されたものです。

私は1959年6月29日、サハリン南部のドリンスクで男5人と女4人の9人兄弟姉妹の末子に生まれました。現在、3人の兄と一番上の姉はすでに亡くなっています。掃除や料理など、家のことは何もせず、自分が欲しいものは親にお願いして何でも買ってもらう、そんな我儘な末子でした。

1978年、19歳の時、友人の誕生日会で知り合った人と結婚しました。結婚後は主人の家族と同居しました。家事のことなど何もできなかったので、姑には文句を言われたり、怒られたりすることが多く、夜、誰もいないところで枕に顔をうずめて泣くことも多くありました。そのような生活が10年ほど続いた頃、私を心配していた母は、私たち夫婦に家を購入してくれたのです。それからは姑とは別に住むようになりました。夫とは特別に仲が悪いわけではなかったので、少しは生活が楽になることを期待していました。

サハリン法座道場で説法をするボクさん

しかし、2001年頃から夫は麻薬に手を出すようになりました。そのことで私はとても悩みました。いままで仲の良かった夫婦の間に喧嘩が多くなり、幼かった子どもたちにも悪影響を及ぼすのではないかと心配になりました。2002年、夫とは離婚をすることになりました。

サハリンの立正佼成会に入会したのは、2001年9月15日です。ちょうど夫の麻薬のことで悩んでいた頃でした。

当時は道場がなく、集まりには会員さんたちのお宅を使わせていただいていました。姉のドンスンは既に入会していて総務のお役をいただいていました。私はよく姉に頼まれて車で会員さんたちの送り迎えをしていましたが、その当時、私は姉たちが怪しい団体に入っていると思い、集会場所の会員宅に車で連れていく人たちのことを蔑みの目で見ていて、自分自身が入会することになるとは考えてもいませんでした。しかし、夫とのことで悩んでいたことに加え、ある日の夜「お腹がすいたよ」と、亡くなった母が夢に出てきたことがきっかけとなり入会したのです。

姉は「ご宝前にあげるお供物によって、ご先祖さまに感謝の気持ちを伝えることが出来る」とよく口にしていました。いつもその言葉を聞いて、私たちはご先祖さまのお陰さまでいまを生きている、ということがよく分かるようになりました。そのご先祖さまを大事にする宗教ならば、けっして怪しい宗教であるわけがないと信じることができたのです。それからというもの、姉の活動をよく見ることにしました。それでわかったことは、姉がお当番にしても、会員さんに接する時にも、いつもとても丁寧で、相手を大切にしていることでした。私も見習いたいと思いました。

入会して学んだことがたくさんありました。そのひとつが、お当番修行や導き・手どり修行を通して相手の立場になって考え、行動することでした。特に、自分よりもっと大きな問題にぶつかっている方々との出会いを通して、いま自分に与えられている幸せにも気づかせていただきました。また、法座の中で、ものの見方を教えていただきました。

夫の家族と同居していた当時は姑のことで悩みましたが、姑のお陰さまで家事や料理も出来るようになったこと、夫がいたお陰さまでいま自分にはかわいい二人の子どもがいることへの感謝に気づかせていただきました。

確かに私はご先祖さまのお陰さまで生かされています。ですからそのお礼に私に出来ることは、ご先祖さまに思いっきり「食べ」させてあげることです。亡くなった姑と、離婚後交通事故で亡くなった夫を含め、親戚や数え切れない程多くのご先祖さまに感謝する心になり、ご宝前を守りながら佼成会の活動を始めました。

こんなにありがたい教えを一人でも多くの人に知ってもらい、一緒に幸せになりたいという思いで、お導き・手どり修行に一層努力させていただきました。そして、2008年、立正佼成会の東京のご本部でご本尊勧請のお手配をいただいたことは、私にとって大きな喜びでした。

私には娘と、息子がいます。娘は結婚し、今は息子のマクシムと一緒に暮らしています。入会後、私は教会勧請の仏さまを我が家にお祀り込みさせていただきましたが、子どもの頃のマクシムにとってご宝前は、何か欲しいものをお願いすれば叶えてくれる存在でした。当時、パソコンが欲しかったマクシムはご宝前に手を合わせました。それが息子にとって初めてご宝前に手を合わせた時でした。

大きくなったマクシムは「何のためにご宝前に食べ物を置くの？」と、質問をしてきました。私は「亡くなったおじいさんやおばあさんたちがお腹がすかないように供養をするためだよ。そして、ご供養をあげながら、ご先祖さまと会話もできるの。特に、辛いことがあった日は、ご先祖さまに聞いてもらえるような気がするの」と、答えました。

2011年、ある事件により息子のマクシムが刑務所に収監されることになり、私はとても心配でした。朝晩、一生懸命三部経をあげさせていただき、また、

裁判の前日には道場でサンガのみなさんと一緒に祈願供養をさせていただきました。しかし、結局息子は刑務所に入り、何も状況は変わりませんでした。自分の思い通りにいかなかったことに失望した私は、ある友人の誘いから、キリスト教の教会に行くことにしました。教会では、「神様に祈れば願い事は叶う、息子さんは刑務所からすぐ出てこられる」と言われ、半年ほど、そこに通い続け、息子のために祈りました。しかし現実は何も変わりませんでした。そこでじっくり考えてみたとき、立正佼成会で学ばせていただいた教えが蘇ってきたのです。「マクシムの問題も、きっと仏さまが私の幸せのためにみせてくれたことだ。もう一度頑張ってみよう」と思い、サハリンの道場に再び足を運びました。

道場に行ってみると、私の辛い思いをわかってくれるサンガの仲間がいました。もう生きていたくないという思いを打ち明ける私に、姉は「私の息子は16歳の時、交通事故で亡くなったのよ。あなたの息子は生きているでしょう。5年たったら戻ってくるんでしょう」という言葉をかけてくれました。そして、「マクシムが刑務所から戻って来た時にはお母さんが元気で迎えてあげないと。お母さんの元気な姿を見れば、マクシムもきっと喜びますよ」と、自分のことのように心配してくれるサンガの応援に力をいただき、その後、お導きや北海道支教区での研修、団参に参加するなどの修行をさせていただきました。

マクシムは裁判で言い渡された量刑が減軽されることになり、予定より早く家に戻ることができました。元の優しい息子の姿に戻ってくれて私はとても安心しました。

昨年と今年、4月に開催された北海道支教区の研修に参加させていただきましたが、特に今年の研修では、私の気持ちに大きな変化が起こりました。理由はいくつもありますが、一番大きな理由は、会員さんたちの姿でした。いつも礼儀正しく、優しく、笑顔で、慈悲の心で接している姿を見た時、皆さんには問題や苦しみなどないのだと思っていました。しかし、手どりに行ったり、法座に参加したりしているうちに、私は目が覚めました。皆さんは悲しい体験をしているのに、いつも優しく、温かく、明るく、そして支え合い、助け合いながら修行していることがわかったからです。サハリンの法座では、いままで自分の本当の気持ちをさらけ出して結んでもらうことが少なかったのです。法座で話したことが噂になって広がると、それ以上は話せなくなったり、また陰で事実と違うことを吹聴されて傷ついたりしたこともありました。しかし、今回の北海道での法座修行で、私は初めて自分の息子に対する気持ちを素直に話すことができました。

「息子は以前とはずいぶん変わり、いまは安心していますが、お付き合いしている彼女のことが気にいらないのです。それが一番の悩みです。私としては、相手は韓国の人で息子の面倒をよく見てくれる女性がいいのに」と、悩みを話しました。それに対し

て坪内支部長さんから、「何でも思い通りになったら修行になりませんよ。いまの修行がファスンさんに必要なのです。いやな心は道場の法座で出し切って、気に入らないかもしれないけれど、息子さんの幸せを考えて、いまお付き合いをしている彼女を笑顔で迎えてあげなさい」とのご指導をいただきました。

北海道での研修を終えて家に帰ってみると、いままでは佼成会にそっぽを向いていた息子が自分からご宝前にお水や甘い物をあげてくれていたのです！私のひとつの夢が叶ったのです。でも恥ずかしかったので、顔には何も表さずに息子に感謝しました。でも心の中では死ぬほどうれしかったのです。そしてそれは息子が佼成会の道を歩む第一歩でした。

それどころか、息子は、彼女や友人にも入会を勧めてくれていて、実は今日、息子も含め3人が同時に入会してくれるのです。こんなにうれしいことはありません。息子が入会を決意した時、「僕が大変な時、ママは毎日朝晩、泣きながら三部経をあげていました。たくさん迷惑をかけてしまい、いまそのことを考えると恥ずかしい。これからは教えをもっと学んでいきたい」と私に話してくれたのです。

後から聞いた話ですが、マクシムは北海道での研修から戻った私に喜んでもらうにはどうしたらよいか考え、いつもご宝前を大事にしている私の姿を思い出し、ご宝前にお給仕をしようと思ったのだそうです。

このたびの説法原稿を書くにあたり、朴愛子主任さんからたくさんの助言をいただきました。私の導きの親は姉ですが、その姉の導きの親は愛子主任さんです。ですから、説法原稿をまとめながら愛子主任さんに対する感謝の念がしみじみとわいてくるのを感じました。

おかげさまで、今年の10月には東京のご本部で教師資格拝受のお手配をいただくことになりました。この喜びを胸に、仏さまのみ教えを多くの人々にお伝えできるよう、そして新しい会員さんがもっと増え、また道場になかなか参拝に来ていただけない会員さんたちに参拝したいと思ってもらえるように、私は手どり修行になお一層精進することをお誓いいたします。また、最近サハリンの道場には青年たちの姿が増えてきました。青年たちの活動を励ましながら、温かいサンガ作りに取り組み、北海道の研修で学んだ行学二道の教えを毎日の生活に生かして参りたいと思います。

皆さまご清聴ありがとうございました。

北海道支教区、サハリン法座のサンガと（前列中央）

法華三部経
各品のあらましと要点

妙法蓮華経
譬諭品第三（1）

法華経も、この品からたいへんやさしくなります。お釈迦さまがこれまでの理論的な、哲学的な説き方をここで一変され、譬えなどを盛んに用いられて、一般大衆にも分かりやすい説法へと転換されるからです。

授 記

さて、《方便品第二》のご説法をうかがった舎利弗は、喜びを満面にあらわしながら立ち上がり、「仏さま、よく分かりました。ありがとうございます。こんなにうれしいことはございません」とお礼を申し上げました。

なぜ舎利弗がそのように感激したかといいますと、いうまでもなく、自分も仏になれることがはっきり分かったからです。いままでは、自分はどこまでいっても声聞だと思い込んでいました。菩薩より一段劣った修行者だと、両者のあいだにはっきり一線を引いていました。ましてや仏さまとなると、もはや自分とはまったくかけはなれた存在のように思い込み、仏になろうなどということは、大それたことだとして、考えたことさえなかったのです。

ところが、《方便品》のご説法で、〈余乗あることなく唯一仏乗のみなり（仏道に二つも三つもあるものではない。ただ一つ、仏になる道だけである）〉とお説きになり、〈諸の菩薩を教化して　声聞の弟子なし（わたしの弟子はすべて菩薩であって、声聞の弟子というものはない）〉とおおせられ、最後に〈心に大歓喜を生じて　自ら当に作仏すべしと知れ〉とお結びになりました。それをうかがって、自分はいわば声聞という高校生だと思っていたのが、その学校は菩薩大学の予科（本科に入るための予備の課程）だったことが分かったのです。つまり、まだ高校生だとばかり思い込んでいたのに、実は大学生だったことが分かったのです。しかも、菩薩大学は仏になる大学だから、そこで修行を積みさえすれば必ず仏になれることが心の底にはっきりとつかめたのです。ですから大歓喜せざるをえないのです。

そこで舎利弗は、仏さまにお礼を申し上げるとともに、いままでの自分のいたらなさを、率直に懺悔しました。すると仏さまは、舎利弗の悟りが真実であることをお認めになって、「そなたは必ず仏の境地に達することができる」という記莂を与えられます。これが、いわゆる声聞の弟子の最初の授記です。この後で、高弟たちが次つぎに授記され、ついにはすべての弟子が授記されます。ですから、〈法華経は授記経である〉という見方をすることができるのです。すなわち、〈すべての人間は仏になることができる〉という保証を与えられるお経だというわけです。これが法華経の一大特色なのであります。

さて、お礼と懺悔を申し上げた舎利弗が、「わたくしは必ず仏の悟りを成就し、無上の教えを説いて、多くの人びとを教化いたしましょう」とお誓

いし、「こうしてわたくしは目を開くことができましたが、ほかの多くの人たちは、あまりにも仏さまの教えが深遠なために、当惑をおぼえております。どうぞ、その人たちにもこの境地を分からせてあげてくださいませ」とお願いいたします。

すると世尊は、次のような譬え話を語りはじめられるのです。いわゆる〈三車火宅の譬え〉です。

三車火宅の譬え

「ある国のある町に、裕福な大長者がおりました。その家屋敷は広大なものでしたが、門はごく狭いのが一つしかありませんでした。しかも、家はたいへん荒れはてていました。

その家が突然火事になりました。火はみるみる燃えひろがりました。家の中には長者の子どもたちが大勢いるのです。外にいた長者が驚いて引き返してきてみると、子どもたちは夢中で遊びたわむれているではありませんか。

火に焼かれそうになっているのに、いっこうに気づかず、従って、逃げだそうという気も起こさない様子なのです。長者はそれを見て、一瞬考えました。――自分には大力があるから、何か箱のようなものにみんなを乗せて、一気に外へ押し出して救おうか――。しかし、すぐ考えなおしました。――待てよ、それでは、こぼれ落ちた者は焼け死んでしまう。やはり、火の恐ろしいことを知らせて、自分から外へ出るように仕向けるのが第一だ――。

そこで長者は、大声で『このままでは焼け死んでしまうぞ。早く外へ出なさい』と教えてあげましたが、子どもたちは長者の顔をチラリチラリと見るだけで、聞く耳を持ちません。その時長者は、ふと、子どもたちがいつも車を欲しがっていたのを思い出しましたので、『おまえたちの好きな、羊の引く車や、鹿の引く車や、牛の引く車が門の外にあるぞ。欲しいのをあげるから、早く出てきて取りなさい』と叫びました。

子どもたちは、その言葉を聞くと正気に返って、『それゆけ』とばかり、われ先に走りだし、燃えさかる家から出ることができました。父の長者は、みんなが怪我なく脱出したのを見て、やっと安心しました。子どもたちは父の姿を見ると、口々に約束の車をせがみます。すると父の長者は、子どもたちが欲しがっていた車ではなく、大きな白い牛の引く、しかも多くの宝物に飾られたすばらしい車を、みんなにひとしく与えたのでありました」

この譬え話にこめられた意味は、すでにお分かりのことと思いますが、念のため簡単に説明すれば、父の長者はいうまでもなく仏さまです。子どもたちはわれわれ凡夫、荒れはてた家というのは現実の人間社会、火事はわれわれの煩悩を指しています。人生苦は煩悩が原因です。物質・肉体などにすっかりとらわれて、精神の自由自在を失っているから苦しいのです。しかも、愚な衆生は、自分の精神に自由自在さがないことにさえ気がつきません。そのため、煩悩の火に焼かれようとしていることが分からず、ただ日々の生活に心を奪われているのです。

そうした人間の不幸を救うために、お釈迦さまはいろいろな教えをお説きになりました。人間にはいろいろな型があって、救いの道をたどるにも、いい教えを一心に聞いて迷いを去ろうと努める声聞型の人もあり、自分一人で瞑想・思索して道を切り開こうとする縁覚型の人もあり、また、至上の悟りを求めると同時に大衆の救済運動に挺身しようとする菩薩型の人もおります。人びとは、お釈迦さまの教えの中に自分の傾向にピッタリしたものがあれば、知らず知らずのうちにその教えに引き込まれてゆきます。それぞれ子どもが、欲しい車をもらおうとして、一人でに門の外へ走り出たというのは、こういう意味です。

仏の教えはただ一つ

ですから、仏さまの教えは最終的にはただ一つ〈仏になる道〉しかないのですけれども、その予備段階として、さまざまな〈方便の教え〉をお説きになるわけです。人びとは、それぞれの教えに従って懸命に人格向上の努力をするのですが、その修行がだんだん高まっていくと、それぞれの道がずっと向こうでは一つになっているのを発見するのです。それがすなわち〈仏になる道〉にほかなりません。そこで、いままで自分の歩んできた道は二流三流の道だとばかり思い込んでいたのが、実はすべて最高真実の道にそのまま続いていることが分かり、大きな安心と、希望と、歓喜をおぼえるのです。羊車・鹿車・牛車をもらえるとばかり思っていた子どもたちが、大白牛車という最高の車（仏になる道）を、みんなにひとしく与えられて驚喜したというのは、このことをいっているわけです。

この譬え話を、いわゆる眼光紙背に徹するような読み方をしていくと、以上に述べた主旨のほかにも、いろいろ大切な教えが暗示されていることが分かります。

（庭野日敬著『法華三部経　各品のあらましと要点』
佼成出版社, 2016年［初版　1991年］, p. 42–49）

「思いやり」を、いつも心に

11月は、開祖さま生誕会の月です。私たちにとっては、一年の中でとても嬉しい月の一つですね。そして、開祖さまのご恩に報いるべく菩薩行の実践をし、新たな精進をお誓いするときでもあります。

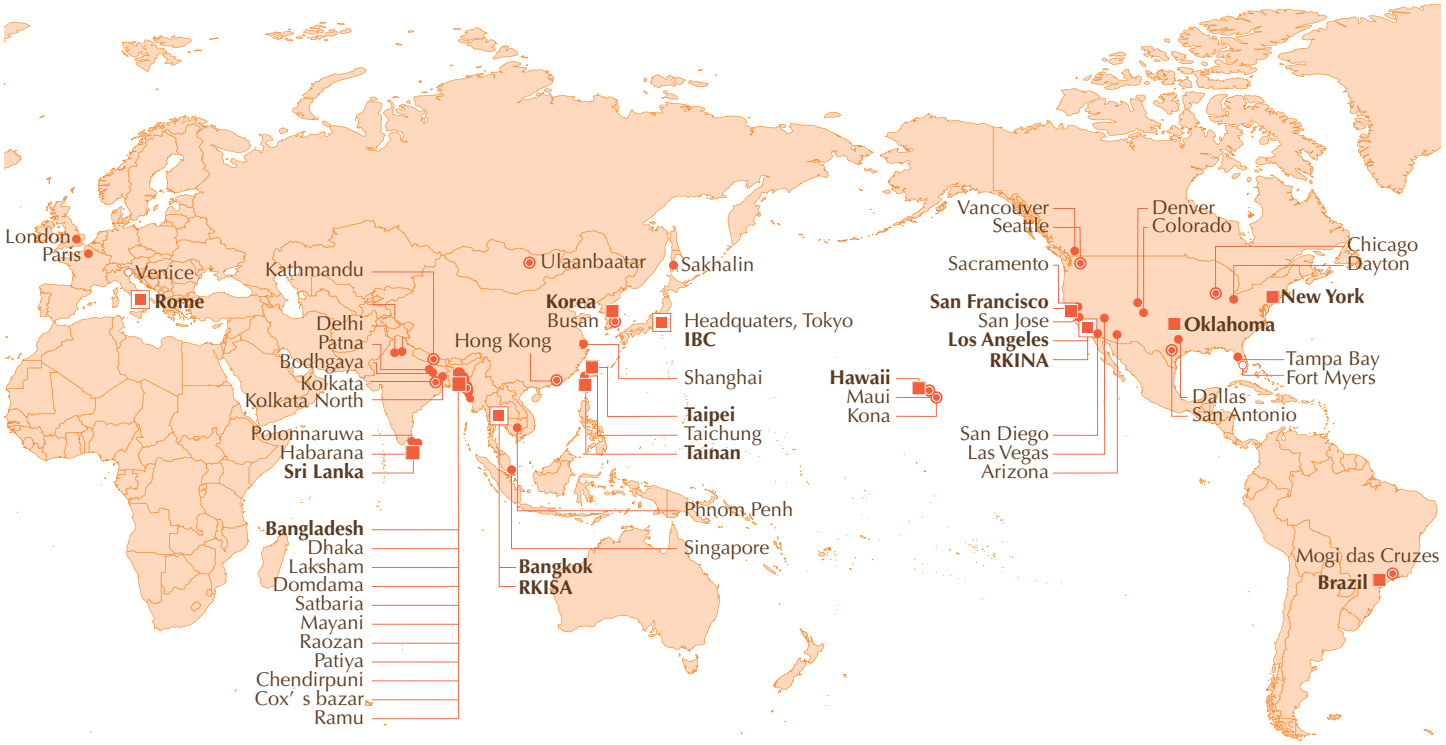
菩薩行の中で一番大事なのは、「布施行」です。まずこの時に、開祖さま、そして、み教えのお陰さまで今の幸せがあることへの感謝の財施をさせていただきましょう。一年間のお礼と80周年のお祝いの気持ちも込めてさせていただけるといいのではないでしょうか？

また、法華経のみ教えで、一人でも多くの人が「私」と同じように幸せになるようにとの心で、布教伝道・お導きをさせていただくことも布施行であり、何よりも尊い報恩感謝の菩薩行です。

世のため・人のために徹し切られた開祖さまに倣いて、思いやりの心で、目の前の菩薩行に精進させていただきましょう！

国際伝道部長

齋藤 高市



Rissho Kosei-kai International Branches

Living the Lotus では、 皆さんのご意見・ご感想を募集しています。
お問い合わせは、 以下の E メールアドレスにお願い致します。
E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai
Overseas Dharma Centers 2018

Rissho Kosei-kai International
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1124 *Fax:* 81-3-5341-1224

Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)
2707 East First Street Suite #1 Los Angeles CA 90033 U.S.A
Tel: 1-323-262-4430 *Fax:* 1-323-262-4437
e-mail: info@rkina.org http://www.rkina.org

Branch under RKINA

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center
28621 Pacific Highway South, Federal Way,
WA 98003 U.S.A.
Tel: 1-253-945-0024 *Fax:* 1-253-945-0261
e-mail: rkseattlewashington@gmail.com
http://buddhistlearningcenter.org/

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio
6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, U.S.A.
P.O. Box 692148, San Antonio, TX78269, USA
Tel: 1-210-561-7991 *Fax:* 1-210-696-7745
e-mail: dharmasanantonio@gmail.com
http://www.rkina.org/sanantonio.html

Rissho Kosei-kai of Tampa Bay
2470 Nursery Road, Clearwater, FL 33764, U.S.A.
Tel: (727) 560-2927 *e-mail*: rktampabay@yahoo.com
http://www.buddhismtampabay.org/

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii
2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, U.S.A.
Tel: 1-808-455-3212 *Fax:* 1-808-455-4633
e-mail: info@rkhawaii.org http://www.rkhawaii.org

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center
1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, U.S.A.
Tel: 1-808-242-6175 *Fax:* 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center
73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona,
HI 96740 U.S.A.
Tel: 1-808-325-0015 *Fax:* 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles
2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.
Tel: 1-323-269-4741 *Fax:* 1-323-269-4567
e-mail: rk-la@sbcglobal.net http://www.rkina.org/losangeles.html

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco
1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, U.S.A.
Tel: 1-650-359-6951
e-mail: info@rksf.org http://www.rksf.org

Rissho Kosei-kai of Sacramento
Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York
320 East 39th Street, New York, NY 10016 U.S.A.
Tel: 1-212-867-5677 *Fax:* 1-212-697-6499
e-mail: rkny39@gmail.com http://rk-ny.org/

Rissho Kosei-kai of Chicago
1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056 U.S.A.
Tel : 1-773-842-5654 *e-mail:* murakami4838@aol.com
http://home.earthlink.net/~rkchi/

Rissho Kosei-kai of Fort Myers
http://www.rkftmyersbuddhism.org/

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma
2745 N.W. 40th Street, Oklahoma City, OK 73112 U.S.A.
Tel & Fax: 1-405-943-5030
e-mail: rkokdc@gmail.com http://www.rkok-dharmacenter.org

Rissho Kosei-kai, Dharma Center of Denver
1255 Galapago Street, #809 Denver, CO 80204 U.S.A.
Tel: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton
425 Patterson Road, Dayton, OH 45419 U.S.A.
http://www.rkina-dayton.com/

Risho Kossei-kai do Brasil
Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP,
CEP 04116-060 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377
Fax: 55-11-5549-4304
e-mail: risho@terra.com.br http://www.rkk.org.br

Risho Kossei-kai de Mogi das Cruzes
Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP,
CEP 08730-000 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377

Rissho Kosei-kai of Taipei
4F, No. 10 Hengyang Road, Jhongjheng District,
Taipei City 100 Taiwan
Tel: 886-2-2381-1632 *Fax:* 886-2-2331-3433
http://kosei-kai.blogspot.com/

Rissho Kosei-kai of Tainan
No. 45, Chongming 23rd Street, East District,
Tainan City 701 Taiwan
Tel: 886-6-289-1478 *Fax:* 886-6-289-1488

Korean Rissho Kosei-kai
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
Tel: 82-2-796-5571 *Fax:* 82-2-796-1696
e-mail: krkk1125@hotmail.com

Korean Rissho Kosei-kai of Busan
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
Tel: 82-51-643-5571 *Fax:* 82-51-643-5572

Branches under the Headquarters

Rissho Kosei-kai of Hong Kong
Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road,
North Point, Hong Kong, Republic of China

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar
15F Express tower, Peace avenue, khoroo-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia
Tel: 976-70006960 *e-mail:* rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Sakhalin
4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk
693005, Russian Federation
Tel & Fax: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai di Roma
Via Torino, 29-00184 Roma, Italia
Tel & Fax : 39-06-48913949 *e-mail:* roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK
Rissho Kosei-kai of Venezia
Rissho Kosei-kai of Paris

International Buddhist Congregation (IBC)
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1230 *Fax:* 81-3-5341-1224
e-mail: ibcrk@kosei-kai.or.jp http://www.ibc-rk.org/

Rissho Kosei-kai of South Asia Division
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax*: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax*: 66-2-716-8218
e-mail: thairissho@csloxinfo.com

Branches under the South Asia Division

Rissho Kosei-kai of Delhi
77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar, New Delhi
110060, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata
E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North
AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya
Ambedkar Nagar, West Police Line Road
Rumpur, Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Kathmandu
Ward No. 3, Jhamsilhel, Sancepa-1, Lalitpur,
Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh
#201E2, St 128, Sangkat Mittapheap, Khan 7 Makara,
Phnom Penh, Cambodia

Rissho Kosei-kai of Patna
Rissho Kosei-kai of Singapore

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218 *e-mail:* info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei-kai of Bangladesh
85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
Tel & Fax: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai of Dhaka
House#408/8, Road#7(West), D.O.H.S Baridhara,
Dhaka Cant.-1206, Bangladesh
Tel: 880-2-8413855

Rissho Kosei-kai of Mayani
Mayani(Barua Para), Post Office: Abutorab, Police Station: Mirshari,
District: Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Patiya
Patiya, sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Domdama
Domdama, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Cox's Bazar
Ume Burmese Market, Main Road Teck Para, Cox'sbazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Satbaria
Satbaria, Hajirpara, Chandanish, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Laksham
Dupchar (West Para), Bhora Jatgat pur, Laksham, Comilla,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Raozan
West Raozan, Ramjan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Chendirpuni
Chendirpuni, Adhunagor, Lohagara, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Ramu

Rissho Kosei Dhamma Foundation, Sri Lanka
No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
Tel: 94-11-2982406 *Fax*: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Habarana
151, Damulla Road, Habarana, Sri Lanka

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Other Groups

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai